

書評

農的デザイン研究所代表
葛谷栄一

協同組合のコモン・センス

中川雄一郎



「『協力・協同(Cooperation)も協同組合(Cooperation)もだれもが共有する意識対象であり、また健全でかつ実際的な判断力に基礎を置く対象である』ことを市井の人たちに伝えたい」として本書は編まれた。

五つの講演録と一つの論文から構成され、第1章はロッチデール公正先駆者組合、第2章は協同組合理念とシチズンシップ、第3章は社会的企業、第4章はレイドロー報告、同IIは「未来の創造者」としての協同組合、第5章はシチズンシップと非営利・協同I-Iを内容とする。専門的で、歯応えも相当だ。

書名副題に「歴史と理念とアイデンティティ」とあるように、これらへのこだわりが面白く、気付きと示唆を与えてくれる。例えば、1844年のロッチデール公正先駆者組合の設立は、「普遍的権利としての

問い、掛ける「新たな在り方」

- ◇出版＝日本経済評論社
- ◇価格＝2800円
- ◇副題＝歴史と理念とアイデンティティ
- ◇なかがわ・ゆういちろう 明治大学名誉教授

平等の議決権、すなわち『一人一票の議決権』が男女の組合員に与えられることを謳うことで民主主義の理念を實踐し、『近代イギリス民主主義の扉を開く』役割を果たした。また消費協同組合とオウエン主義者や労働者協同組合との間で長年にわたって、「購買高に応じた利潤分配」とするか、「労働に応じた利潤分配」とするかで激しい利潤分配論争が展開されてきたことなど興味深い話は多い。

本書全体としての最大のテーマは「非営利・協同」とシチズンシップだと受け止める。現代は「非営利」による市民生活の「新たな形式と秩序」による社会的な実体化が求められており、「自治・権利・責任・参加」をコアとする「シチズンシップ」と協同組合は重なるところがあるが著者の最も強調したいところではないか。

協同組合の新たな在り方を強く問い掛けている。